



▲開花の遅れた桜はつぼみが目立ちました



▲“さくらまつり”の会場となった小中山児童公園

地域の話題

中山校区

“さくらまつり”

「心の和と輪がはぐくむめぐもり安心わが校区」を将来像に、意欲的にまちづくりを進めている中山校区から、地域のふれあいイベントについて、お便りが届きました。



東

日本大震災の発生後、被災地の状況に配慮し、各地で予定されていたイベントが軒並み中止になりました。中山校区でも、春の恒例行事「さくらまつり」の開催に賛否両論ありましたが、「こんなときだからこそ元気になるイベントを」「校区の一部は津波浸水危険区域に指定されているので、防災について考える良い機会になるのではないか」との声を尊重し、4月2日（土）、小中山児童公園で予定どおり「さくらまつり」を開催しました。

校区に愛着を

このまつりは、『中山校区まちづくり推進計画』に掲げた「健全で明るく元気な子どもたちを育てる地域づくり」「校区コミュニティの推進」

の実現を目的としたものです。「地域活動は自治会（中山・小中山）中心で、校区にあまり縁がない」というアンケートの意見に応え、地域全体の老若男女が集うふれあいの場を提供し、校区の文化施設を再認識してもらおうと、平成19年度から開催しています。

義援金の募集も

今回のまつりでは、日本大震災被災地の復興支援に役立てようと、会場に募金箱を設置して義援金を募りました。また、校区役員から、当日朝に漁獲した新鮮な魚が桶3杯分も提供されるという粋な計らいがありま



▲新鮮魚のチャリティー販売は完売

した。魚は格安で参加者に振る舞われ、その売上金も義援金として生かされました。

イベントの成果を実感

まつり会場の児童公園は小中山地区にあり、外周が桜の木で囲まれた校区一のお花見スポットです。今年は桜の開花が遅かったため、この日は残念ながら満開とはいきませんでした。それでも約300人の皆さんに来場していただきました。

友人同士の「やっとかめだのん」というあいさつや、親子の楽しそうな歓声が一日中公園に響いていました。また、中山地区の方からは「この公園にきたのは小学生以来だ」「こんなに広い公園があったんだ」という声も聞かれ、地区を越えた交流の広がりを感ずることができました。

中山校区では、これからもさまざま

なイベントや教室を通し、校区コミュニティの熟成はもちろん、東海・東南海地震を想定した防災対策について、意識の高揚が図られるよう、工夫していきます。